

日本の株式市場における ショート・ターミズム（短期主義）の実証分析

林 寿和
小 崎 亜依子 CMA

目 次

- | | |
|-------------------------------|------------|
| 1. はじめに | 4. 分析結果と考察 |
| 2. ショート・ターミズムの問題点 | 5. まとめ |
| 3. 日本の株式市場におけるショート・ターミズムの実証分析 | |

本稿では、世界的に議論が高まっている投資家のショート・ターミズム（短期主義）問題を取り上げ、我が国株式市場の上場企業を対象に、1996年から2003年の期間にかけてショート・ターミズムが存在していたか否かについて実証分析を行った。検証結果は、米国や英国の株式市場について報告されているのと同様に、我が国の株式市場においても、2001年以降、投資家がショート・ターミズムに陥っていた可能性を示唆している。

1. はじめに

株式市場や企業経営における短期主義（以下「ショート・ターミズム」）は、20年以上前から、景気のさまざまな局面とともに繰り返し議論されて

きた問題であるが、特に不況下において、その弊害に関する議論が活発に交わされてきた（淵田[2012]）。例えば、1990年代初頭の米国においては、同国の国際的な競争力が低下しているとの危機意識の下、ショート・ターミズムに関する議論



林 寿和（はやし としかず）

株式会社日本総合研究所創発戦略センター／ESGリサーチセンター ESGアナリスト。2005年京都大学工学部物理工学科卒業。10年エジンバラ大学大学院修了（経済学修士）、11年ケンブリッジ大学ジャッジビジネススクール修了（技術政策修士）。官庁勤務を経て、日本総合研究所入社。主にESG投資・融資のための企業評価を手がける。



小崎 亜依子（こざき あいこ）

株式会社日本総合研究所創発戦略センター／ESGリサーチセンターマネジャー。慶応義塾大学総合政策学部卒業。ピッツバーグ大学公共政策国際関係大学院修了。民間金融機関勤務を経て、日本総合研究所入社。主にESG投資・融資のための企業評価を手がける。当協会「企業価値分析におけるESG要因研究会」委員。